

(一財) 松本ものづくり産業支援センター

NEWS

ものづくり産業支援の
ワンストップサービスを
目指します

第4号

令和元年12月発行

33GAKU

サザンガク

matsumoto collaboration space

オープン

菅谷市長あいさつ

記念式典



内覧会



オープニングイベント

目次

- 1 ICT拠点「33ガク」がオープン 3P
- 2 ものづくり支援担当から 4~8P
 - 杉本 守 アドバイザー
 - 豊口 稔 コーディネーター
 - 広橋 修 コーディネーター
 - 相吉 一浩 コーディネーター
- 3 ICT支援担当から 9~11P
 - 野尻 和彦 コーディネーター
 - 廣津 秀宣 コーディネーター
- 4 支援活動トピックス 12~13P
- 5 募集！メルマガ会員&研究開発室入居企業 14P
- 6 講習会・視察会・催しのご案内 15P

ものづくり支援担当 新コーディネーターの紹介



相吉コーディネーター

得意分野

7月より、新たにコーディネーターとして着任しました。
前職で培ってきた生産技術力を武器として、世の中になく製造現場を目指し、その先にはそれぞれの企業のお客さまの期待を超える、新しい価値創出の実現に向けて、支援してまいります。

主な支援内容

- ① I E 技術を活用し、製造力強化（工場/工程設計、自動化/合理化/省人化等）支援
- ② 次世代ものづくり人材の育成
- ③ 企業連携による、新たな価値創出に向けた支援

ICT拠点「^{サザン}33ガク」がオープン

11月1日に、松本における「新しい働き方・雇用の創出」を推進していくためのICT拠点「サザンガク」が、大名町通りのNTT東日本ビル1階にオープンしました。

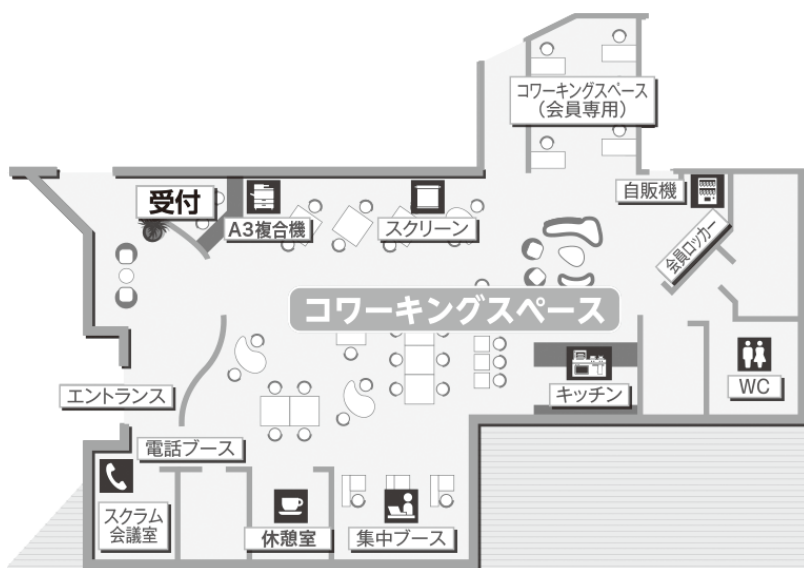
オープン記念式典で菅谷市長は、「『経済の健康』を創出するために、若者にとって魅力ある活気あふれる地域を目指し、企業などの持続的な成長発展ができる環境を整え、『産業創発』に繋げていくためにも、ICT拠点『サザンガク』の整備は大きな意味を持つ」と挨拶しました。

拠点施設の3つの機能である「テレワーク」、「コワーキング」「サテライト」、そしてそこに集う「人」と「人」が掛け合わさって大きな力が生まれる施設、それが「サザンガク」の名前に込められた想いです。

「サザンガク」のコワーキングスペースでは、他のユーザーとのコミュニケーション・ネットワークの構築を想定したオープンなワークエリアの他、より集中した作業向けの「集中ブース」や、登録した会員ユーザーが使える「会員専用」など、様々なシーンを想定したスペースを用意しています。

また、新しいアイデアやビジネスの発現を促す「仕掛け」として、ユーザー同士のコミュニケーションを深める「キッチン」、短時間の立ち会議を想定した「スクラム会議室」、食事也能する「休憩室」など、柔軟なワークスタイルを提案するファシリティを提供します。

皆さまのご利用をお待ちしております。



33GAKU
サザンガク
matsumoto collaboration space

【料金】 ドロップイン 2時間／500円（税込） 1日1,000円（税込）
月極会員 10,000円（税込）

【営業時間】 平日 午前10時～午後7時まで

【休館日】 土日・祝日・年末年始

【お問い合わせ先】 〒390-0874 松本市大手3丁目3番9号

☎0263-33-0339 FAX0263-33-0305

URL: <https://33gaku.jp/>

ものづくり支援担当から

杉本 守 アドバイザー

松本市工業ビジョンに掲げる「産業用ロボット等の高度な産業用機械分野」の重点的な推進を狙いとし、ものづくり中小企業の生産性向上に向けた自動化・RB化を支援しています。

本年度は【産業用ロボット等高度利用化研究会】として、ロボットシステムインテグレータの講演会を2回開催しました。

第一回目

2019年6月6日

Sler講演会 総勢65名

製造業のための 自動化の勘所 ～Sler事業視点からの技術提案～
三明機工、シナノケンシ、三明、MUJIN

特別 講演

Sler協会会長 久保田 和雄 様（三明機工株式会社代表取締役社長）

労働環境の改善や人手不足に対応するための製造工程の自動化要求は高まっています。高度な自動化装置やロボット等を活用した製造ライン構築には構想の段階から専門のエンジニアリング企業（システムインテグレータ：Sler）が幅広く関わり数々の事業者の要望に応えています。一般社団法人日本ロボット工業会は2018年にSler事業者の連携、技術や製品規格の標準策定などを目的に特定事業としてF A・ロボットシステムインテグレータ協会（Sler協会）の活動を開始しました。これまでの自動化システム等を事例として、Sler事業者からみた自動化推進における課題や今後の展望についてご講演頂きました。

技術 紹介 1

手に関して 永井 裕 様（シナノケンシ株式会社 ALビジネスユニット 副ビジネスユニット長）

把持（掴む・握る）については、それぞれの対象物に合わせた専用設計が主流であるため、把持機構の高価格・長納期・段取り費用増の傾向にあります。この技術課題をモーターメカならではの視点で克服するべく、「あらゆるものを把持」に挑戦！をスローガンにロボットハンドの開発に着手されました。この度発売するロボットハンドの狙いと今後の開発動向をご紹介頂きました。

ハンド+モータ+コントローラ体型

- ・ステッピングモータを用いたサーボシステム
- ・柔・硬に合わせて把持力を調整可能
- ・動作速度・開閉位置等の制御



技術 紹介 2

インライン化に関して 樋口 恭平 様（株式会社三明 産業電機営業部 長野営業所 所長）

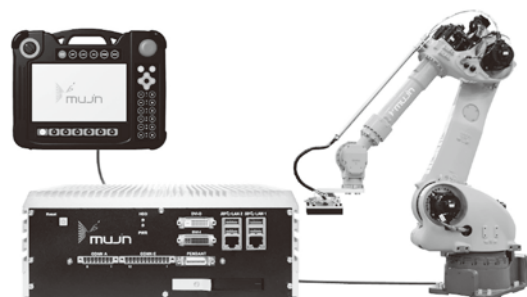
既に製造装置はあるが、さらに進んだ自動化工程構築には既存装置をどう繋いで行けば良いのか、装置への除給材、検査工程等を関連装置や工作機械と組み合わせ最適な自動化システム構築のための構想、設計の仕方を導入事例を基にご紹介頂きました。

技術 紹介 3

目と頭に関して 阿部 翔太 様（株式会社MUJIN FA営業部 担当課長）

製造工程で人海戦術や熟練者に頼っている作業を自動化する為の技術障壁と、それを乗り越えるアイデアとしてMUJINコントローラによる製造現場の自動化に関する実例をご紹介します。

1. どのロボットにも使える
2. 誰でも簡単に使える
3. ロボットを知能化できる
4. 誰でもロボットメーカーになれる



Sler協会会長、三明機工社長の久保田社長の講演の中で、Slerの構想提案（通常、無償）を有料にしていくべき とのご意見は、①Slerの課題を提議しており、②「構想設計」が自動化全体を決める重要なプロセスであることを改めて確認できました。

第二回目

2019年10月1日

地元Sler講演会 総勢79名

自動化のキッカケづくり ～地元Slerからの導入事例紹介～

プラスアース（茅野）、サイクス（塩尻）、三和ロボティクス（飯田）

省人化・自動化の課題解決の主体は、RBMメーカーとものづくり企業を繋ぐシステムインテグレータであります。当地の課題・ニーズに対応できるSlerは多くはありません。例えば静岡や愛知などには多くの力のあるSler企業がありますが、ほとんどが自動車産業向けの大型の溶接ロボットを中心に成長してきました。一方、諏訪地域、松本地域のものづくり企業は手のひらに載る部品サイズが得意であり、地元のSlerはこういったサイズ感（公差）を必然的に持っています。

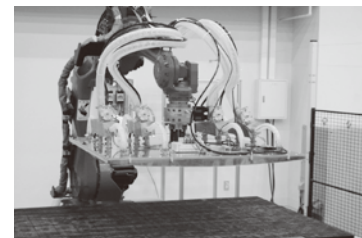
更に、地元のRBSler企業の多くは大手企業向けの大規模な自動化ライン受注が主体であり、中小企業の一部の工程課題に関心を持って頂けるSlerはほとんどありません。

手のひらサイズ感をお持ちであり、当地域のものづくり中小企業の省人化・自動化課題に関心がある地元Slerとして、3社にご講演をお願いいたしました。



【手のひらサイズも得意な】
（株）プラスアース（茅野市）
代表取締役 加地 弘一 様
力覚センサ付ロボットを活用したバリ取り装置

【大物から小物までユーザー要求に応える】
（株）サイクス（塩尻市）
代表取締役 栗林 大作 様
フロア吸着ロボットハンド



小荷マシニングセンター用
パレットローダーシステム
NEXSRT
A300/A150
新登場

【多品種小ロット生産を革新する】
三和ロボティクス（株）（飯田市）
代表取締役社長 沢 宏宣 様
パレットローダーシステム

豊口 稔 コーディネーター

新・食品表示基準セミナー開催の報告

去る9月19日、「まだ間に合う 新・食品表示基準セミナー」を開催いたしました（主催 松本地域産学官交流ネットワーク）。お陰様で食料品製造業を中心に参加企業44社、57名の参加で、熱心な聴講をいただきました。

冒頭、松本市商工観光部小西課長より「松本地域農商工連携ブランド化推進事業」の説明があり、初めに長野県松本地域産業振興局農政課山田主事より「加工食品における原材料原産地表示の義務化について」説明がありました。続いて、食品表示検定協会の佐々木特任講師より「最終確認！新・食品表示基準」と題しまして、加工食品における表示改正点について詳細な説明がありました。なお細部につきましては、消費者庁HP等でご確認ください（講演内容などのお問い合わせは豊口まで）。



トピック 経過措置期間は令和2年3月31日まで

食品表示基準に基づく食品の表示については、経過措置期間（基準の施行後、新ルールに基づく表示への移行のための猶予期間）が、加工食品及び添加物の表示は令和2年3月31日までとなっており、この期間内に新ルールに基づく食品表示に切り替える必要があります。食品に新しい表示をされる場合は、従前のルールから変更されている以下の点に留意し、表示する必要があります。

○アレルギー表示に係るルールの改善

特定加工食品^{※1}及びその拡大表記^{※2}を廃止することにより、より広範囲の原材料について、アレルギーを含む旨の表示を義務付けました。

また、消費者の食品選択の幅を広げるため、個別表示を原則とし、例外的に一括表示を可能としました。

一括表示をする場合、一括表示欄を見ることでその食品に含まれる全てのアレルギーを把握できるようにするため、一括表示欄に全て表示することとした（従前は、「卵」や「小麦」が原材料として表示されている場合や、「たまご」や「コムギ」が代替表記^{※3}で表示されている場合は、改めて一括表示欄に表示する必要はありませんでしたが、基準では、原材料等として既に表示された「卵」、「小麦」も一括表示欄に改めて表示が必要でした。）。

※1 特定加工食品

表記に特定原材料等を含まないが、一般的にアレルギーを含むことが予測できると考えられてきた食品（例：オムレツ←卵を含む、うどん←小麦を含む）

※2 特定加工食品の拡大表記

表記に特定加工食品の名称を含むことにより、アレルギーを含むことが予測できると考えられてきた表記（例：からしマヨネーズ←卵を含む、ロールパン←小麦を含む）

※3 代替表記

表記方法や言葉が違おうが、アレルギーを含む食品と同一であるということが理解できる表記（例：たまご←卵と同一、コムギ←小麦と同一）

廃止

○栄養成分表示の義務化

食品関連事業者に対し、原則として、全ての消費者向け加工食品及び添加物への栄養成分表示を義務付けました。

【義務】熱量、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム（「食塩相当量」で表示）

【任意（推奨）】飽和脂肪酸、食物繊維

【任意（その他）】糖類、糖質、コレステロール、ビタミン・ミネラル類

○表示レイアウトの改善

①表示可能面積がおおむね30cm²以下の場合

- ・安全性に関する表示事項（名称、保存の方法、消費期限又は賞味期限、食品関連事業者の氏名又は名称及び住所、アレルギー及びアレルギーフリーアラニル化合物を含む旨）は、省略できません。
- ・食品関連事業者の氏名又は名称及び住所を表示しなくてもよい場合、製造所又は加工所の所在地及び製造者又は加工者の氏名又は名称は省略することはできません。

②原材料名又は添加物

- ・原材料と添加物の区分を明確に表示する必要があります。

なお、原料原産地表示に関する規定は、平成29年9月1日から施行され、経過措置期間は、令和4年3月31日までです。

消費者庁 早わかり食品表示ガイド（事業者向け）より

「松本市地産地消推進の店」登録制度のご紹介

松本市農政課で推進しております事業をご紹介します。本事業は「松本地域産の農畜水産物及びその加工品を積極的に取り扱う市内の飲食店等（食品加工事業所等を含む）を、「松本市地産地消推進の店」として登録し、地産地消に係る取組みを市民及び松本を訪れる方々に周知することで、松本地域産品の消費及び需要の拡大を進め、もって本市における地産地消の推進を図ることを目的とする」制度です。現時点で、114店の登録があります。本件についての詳細は、松本市のホームページにてご確認ください。また、食料品製造業の企業でご興味のある方は、豊口までお問い合わせください。

（登録看板）



広橋 修 コーディネーター

まつもと5Sプロジェクト(松本商工会議所共催)

2016年度に本格スタートした本プロジェクトは今まで十を超える事業所が参画されました。当初から長野県登録専門家平井勝則氏並びに備前コーディネーターのご指導により推進してきました。現在は5S金賞までを目指す事業所、5S銀賞、5S銅賞で一旦支援完了した事業所等があり、十を下回る事業所支援となっております。各種改善活動のベースとなるのが5Sです。多くの事業所の本プロジェクト参加を募集しております。

まつもと5Sプロジェクトに参画された皆さんの声

【社員の声】

- パートさんから幹部まで、皆で取り組めて良かった
- エリア責任者を中心に、メンバーのアイデアで改善が進んだ
- 全員で取り組んだことで、職場内のコミュニケーションが円滑になった
- 物の置き場と量が決まり、探す時間がかなり短くなった
- 先生の指導が毎月あるので、やらねばならない気持ちになった
- お客様が工場見学された時に「以前に比べて、だいぶきれいになったね」と褒められた

【経営者の声】

- 5S活動の継続は、業務効率や快適な職場づくりに効く
- 社員のやる気とコミュニケーションの潤滑油だ
- 社員の問題発見力と改善力が高まった
- 次期投資設備のスペース確保（増築せず）
- 利益に繋がる点を、もう一度社内で強調したい
- トップの取組み姿勢と理解のあり様が成否の鍵だ

たかが5S されど5S

第3期 次世代現場リーダー研究会(松本機械金属工業会主催)

4月にスタートした第3期次世代現場リーダー研究会は、計画通り1回/月開催されています。

すでに計画(全11回)の半ばを過ぎ、受講生(10名/8社)の現場リーダーとしての意識高揚が感じられます。

第4回研究会では豊科公民館ホールで開催された中信地区改善事例発表会(第6148回現場KAIZEN発表大会)を聴講し「現場改善」の事例を学びました。

また、当番企業の工場見学(4社完了)により相互研鑽をし、自社プレゼンテーションでスキルを習得しています。

また、現場リーダーを短期で育成する合理的訓練方法であるTWM-JI(Training Within Industry - Job Instruction)研修により、「仕事の教え方」を実演を通じて学んでいます。

本研究会参加により、受講生同士の繋がりが出来るのもメリットのひとつです。



相吉 一浩 コーディネーター

株式会社デリカ 管理監督者研修会 『工程改善のすすめ』

令和元年10月21日 13～15時 於：(株)デリカ本社（参加者数：20数名）

『工程改善のすすめ』

『止まらない世の中の激しい変化に、自らを変化させて追従しなければいけない。』
『ものづくり現場も同じで、同じことを同じように実施する！それは自身は重要ではあるが、それでは世の中の流れに遅れをとってしまう。』
『改善をし続け、少しでも工程を良くしていく事が重要で、それによって自身の成長そして部下の成長に繋がる。』
『それはつまるところ、自社の利益創出に貢献することに繋がる。』

顧客要求レベルが上がり続ける今、仕事の質・量共に求められています。

そうしますと、働き方改革なんて関係の無い、ひたすら多忙の生活だけが待つこととなります。

日々の業務を、「いかに楽に＆簡単にするか？」という観点で改善を行うことにより、充実した、そして公私にバランスの取れた生活が送れるようになると思っています。

そんな想いを込めて、「工程改善のすすめ」として講演させていただきました。

改善手法は、東大ものづくり経営研究センターの支援を受け、信州ものづくり革新スクールで行っているIE手法の一端を、事例交えて紹介しました。

今回の講演内容から気付きを得て頂き、各組織にて自発的に改善活動がスタート出来ることを期待すると共に、今後必要に応じて個別支援を実施してまいります。





野尻 和彦 コーディネーター

1

旧Windows環境でのデータベースシステムを最新環境で再構築

A社元社員が、在職中に作成した顧客管理・受注管理のシステムが、利用データベースのFileMakerのバージョンが古くなり、一部不具合が生じてきているので、作り替えて正しく稼働させ、かつ機能を整備したい、という要望を受けました。

開発体制や今後の拡張性を検討し、FileMakerでなくMicrosoft Accessにより再開発し、さらに、Windows7のサポート終了もあるので、Windows10での稼働を前提に開発することとしました。開発は、Accessでの実績のある市内のB社としました。

機能的には、現行システムに準拠するが、入力のしやすさや検索結果の項目の見直しを行いました。Windows10 PC上のスタンドアロン業務アプリとしての機能で十分として、クライアントサーバー型、あるいはネット上のASP型であることを要しないことになりました。将来的にはタブレットでの利用時にタッチパネルとしての入力も想定されますが、現状は不要としました。

現時点では、2000年からのデータが保持されているので、完了後に、現状のデータを可能な限り新システムに移行することとしました。

打合せ開始から約2か月で基本設計を終了して機能的な評価を実施した後で、Windows7からWindows10への切替の時期、及び、業務量が比較的に少なくなる時期などのA社内の事情も勘案して、詳細設計・開発・納品・設置設定・操作説明のスケジュールを提案しました。

2

Windows NT Serverで構築したファイル共有をNASで置換え

C社において、20年ほど前に構築した、Windows2000 Serverのファイル共有サーバーが時折エラーを起こし、ハードウェア故障の傾向が大きくなったので、早急に代替措置を講じる必要がある、という相談を受け、対応として、以下2点を検討しました。

- (1) 同等の機能を最新のハードウェア、ソフトウェアで実現するべく出入りの業者から見積を取っているが、それが費用対効果の点からも適しているか。
- (2) Windows2000 Serverはファイル共有サーバーの機能のみで利用しているので、バックアップとしてクラウドが利用できるか。

意見交換をしながら、以下のように結論づけました。

- (1) ファイル共有サーバーとしての機能のみを利用するのであるから、Windows 2016 Serverで再構築する必要はなく、NAS (Network Attached Storage) として単体で販売されているものの方が、同容量で約半額で購入できる。また、購入と設置設定が比較的短期間できる方法としては、NASの購入が優れている。
加えてNAS内でのデータの安全性を高めるためには、RAID-1やRAID-5などの冗長性の設定が必要となる。

(2)

NASへの移行前に故障しデータを失うことを避けるため、早急にUSB接続外付けHDDなどで、現状データをバックアップするとともに、インターネット上のバックアップサービスを併用し、一時的にデータを複合的に安全に保管することを検討した。その後、NASを接続して、バックアップを戻し、使いやすいようにフォルダ構成を設定する手順とした。

(3)

将来的な、クラウドによるデータの共有（Wordなどのファイルの共有）は、Microsoft Office365やGoogle Appsなどが考えられるが、個人向けのサービスよりも、事業所内の複数人数で行うデータ共有を前提とする場合には、Office365 Business など企業向けのサービスを利用するほうが、データの安全性や効率性があるため、費用や利用人数の点からも継続検討することとした。

(4)

事務所内で社員全員がクラウド上でWord、Excelなどを利用する形態に持って行くためには、社内LANを高速化する、プロバイダーとのインターネット契約回線を高速化する、など環境面でも対応しなくてはならないものもある。また、社内LANは安全性や速度を高める目的で有線LAN、無線LANを適宜選択する必要がある。

3 【おしらせ】

Windows7の製品サポートが2020年1月14日に終了します

Windows7の製品サポートが2020年1月14日に終了することが、Microsoft社から正式に発表されております。これまでで、最も多く利用されてきたWindowsシステムですから、現在もまだ利用している方は多いと思います。

しかし、サポートが終了すると、Windows製品のセキュリティ更新プログラムを受け取ることができなくなり、データの安全性を確保することができなくなるなど、不都合が発生してしまいます。

現在は、パソコンはインターネットを通じて世界中のパソコンと繋がっているといっても過言ではありません。サポートが切れた状態のWindowsを利用していると、自分のパソコン、データの安全性が確保されないのみならず、メールやその他のデータの送受信により、他の多くのパソコンに危険をもたらす可能性も出てきてしまいます。

また、アプリケーションソフトが最新だとしても稼働させるWindowsが旧バージョンでは、アプリケーションソフトそのものの機能やパフォーマンスを最大限に利用することはできません。例えば、Windows7の上でOffice365を稼働させる場合には、パフォーマンスの低下や信頼性の問題が発生する可能性があるため、Microsoftはウェブサイトで述べています。

Windows7のパソコンをそのまま使って、Windowsのみ7から10へバージョンアップするという方法もとることができますが、Windows10を登載している最新のパソコンを購入・設置する方が性能を十分に利用できる・この先長く利用できる・利用場面にふさわしいパソコンを選択できる・最新のアプリケーションソフトを利用できるなど、メリットが多くなります。

注意する点は、Windows10にする際には、稼働させる業務ソフトウェアがWindows10に対応しているかどうか、プリンターや通信機器など周辺機器がWindows10の環境で正しく接続できるかどうかを、メーカーや開発元に確認する必要があります。

また、パソコンの技術仕様が適合している場合で同じパソコンを利用したままWindows7をWindows10にバージョンアップする際には、Windows10のライセンスを別途購入してください。無償バージョンアップは、Windows10の発売から1年のみの提供となっておりましたので、現在は無償版を入手することはできません。

詳しくは、Windows10登載パソコンの販売事業者、あるいは、貴社適用業務アプリケーションソフト開発事業者へお問い合わせください。

当センター、ICT支援コーディネーターもご相談をおうけいたします。

廣津 秀宣 コーディネーター

1

企業の実情に応じた課題の解決、ニーズ・シーズのマッチング

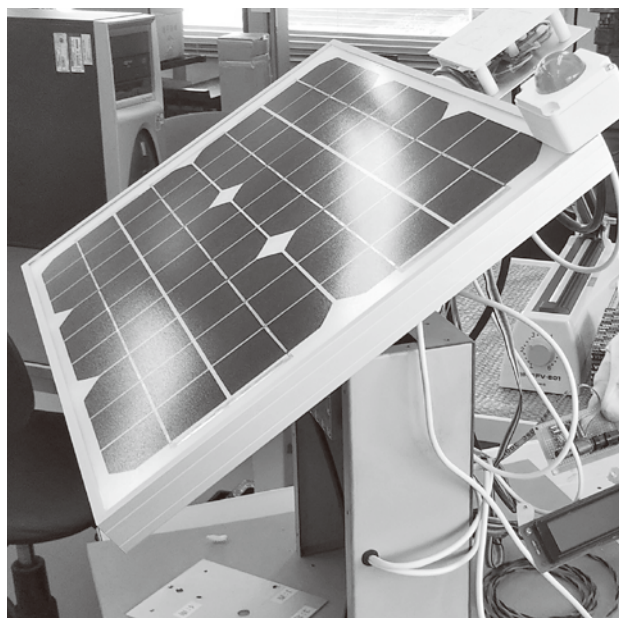
新製品開発後の販路作りを課題とする企業様の支援に取り組んでいます。

(有)エフ・クリエート 松本市波田

製品開発及び販路拡大の課題を抱えている中小企業の紹介を長野県テクノ財団から受け、訪問しました。「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金」を活用することで太陽追尾コントローラーを搭載した「高効率小容量ソーラーパネル充電システム」の試作品開発を6年前に行っています。

当時、公園や野外施設に取り付けできる小型・高効率・軽量・シンプル・低コストかつ安全性を備えた製品（ソーラーパネル充電システム）は市販されていなかった。試作品開発後はテスト販売に向けた活動を行ったが販路確保に苦慮し、製品を販売に結び付ける難しさを痛感した。

ソーラーパネル充電システム試作品開発経験と、その要素技術を活用した新製品開発に再チャレンジしたいとの意向。現時点のアイデアとしては小水路用（水の取り入れ口）自動開閉装置や日の当たらない畑への日光照射装置などが考えられますが、当センターとのタイアップで販路も含めた市場調査、検討を行っていきます。



タイセイグループ 松本市中条

スキンケア原材料に関する支援を行った長野県テクノ財団からの紹介を受け、訪問しました。

オーガニックハーブの栽培から機能性コスメ&サプリを製造し、ECサイトを活用した販売を手掛けたい。サブマーケットに出るための一つの手段として自前のECサイトを構築したいが、ウェブクリエイターに外注するのではなく、ウェブ集客ノウハウを備えたエンジニアによる部分コンサルを希望していました。ウェブを使った販売手法ノウハウを持ったエンジニアを捜し、双方の意向を確認した上、両者を引き合わせるマッチングの場を設けました。現在、両者にて販売チャネルの検討の他、具体的作業に入っています。

2

中小企業様 I T 化推進のための情報提供を行っています

I T 出前講座：講師が貴社に出向いて実施する I T セミナーです。打ち合わせの上で実施しますので希望の内容・日時でセミナーを受講できます。パソコン、機材、資料は松本ものづくり産業支援センターから持ち込みます。松本市内中小企業対象で、講座費用は基本無料です。

「Excelの基礎」、「プレゼンテーションソフトの使い方」の講座を開催しました。現在、事務業務の見える化・ロボット化として注目されている R P A / B I ツールの使い方基礎講座を企画検討しています。人間による定型的な操作を代行し、業務を自動化するソフトウェア型 R P A / B I ツールのインストール方法、基本的な使い方、導入時のサポートと導入後のサポート体制について紹介します。

支援活動トピックス

「次世代の工業界の担い手育成に」松本工業高等学校に工具贈呈

松本臨空工業団地管理組合など4団体でつくる「松本地域工業高校支援連絡会」は7月24日、次世代の工業界の担い手育成を目的に、長野県立松本工業高等学校へ金属加工などに用いる工具等（スクロールチャック、平行台セット、マイクロメータ、エンドミル等、総額60万円相当）を寄贈しました。同校で贈呈式を行い、支援連絡会を代表して同管理組合：戸田竹廣理事長から青柳徹校長へ目録を渡しました。学校からの支援要請に基づく機械類や工具で、今回で9回目の寄贈となりました。支援連絡会では、地域のものづくりが一層発展するようお願い、高校生の中に力を養い、地元で活躍できるよう松本地域の工業高校の支援に今後も継続的に取り組んでまいります。



戸田理事長から青柳校長へ目録贈呈



贈呈後 機械科生徒との懇談

贈呈団体

- 松本臨空工業団地管理組合
- 松本市大久保工場公園団地管理組合
- 松本機械金属工業会
- 松本商工会議所のものづくり工業部会

「ギター生産日本一松本」JR松本駅東西自由通路にギターを展示

「ギター生産日本一松本」を掲げ、昨年に引き続き、今年も8月から「フジゲン・ディバイザー・モリス・スギミュージック・セイレン」の5社が2カ月単位のリレー方式で展示をしています。江戸時代から引き継がれている木工技術が育てたギター生産ですが、現在日本で生産されているギターの半数は、長野県で生産されており、その主要メーカーが松本に集積しています。高級品はアメリカ・ドイツ・東アジア諸国に輸出され多くの著名アーティストや愛好家に使用されています。松本産の桜、杉、松くい虫による松枯れ材のアカマツなど、地域に結びついた材を使用した製品が製作されています。松本駅へお立ち寄りの際は、是非、ご覧ください。



2019.8月～ フジゲン 展示



2019.10月～ ディバイザー 展示

今井小学校5年生が工場見学しました。～(株)タカノ・(株)デリカ～

松本臨空工業団地管理組合にご協力いただき、昨年に引き続き、今年も11月8日、今井小学校5年生29名が社会科の日本の工業についての学習として、(株)タカノと(株)デリカの工場見学を行いました。

身近な工業団地2社の見学を通して、工業生産に携わる人々にふれて人々の努力や思い、「ものづくり」の仕組みや工夫を学びました。

タカノでは、ドイツ製レーザー・パンチ複合機の世界最高峰の金属加工技術や、国内に数台しかない金属3Dプリンターの金属の粉末から複雑な3次元形状の製品が造形される様子、デリカさんでは、農業機械の開発から販売までを全て行い、中でもトラクタ用3点リンクの国内シェアは80%を超えることや、電動アシスト四輪自転車「けんきゃくん」の試乗体験などが、子どもたちには強い印象が残ったようです。



(株)タカノ 「レーザー・パンチ複合機」を前に



(株)デリカ 「けんきゃくん」試乗

展示会出展支援 ～令和元年度支援状況～

各地で開催される展示会に出展し、自ら開発した新製品・技術・サービスを紹介し、販路開拓等ビジネスマッチングを促進しましょう。

令和元年度 **「松本市製造業等販路拡大支援事業補助金」支援状況** (予定含む)

補助金額 「国内展示会 25万円／海外展示会 50万円」

- 支援企業数 / 28社
- 展示会数 / 32件 (うち海外4件)
- 補助金活用例 / 第54回スーパーマーケット・トレードショー2020
新価値創造展2019
自動車部品&加工EXPO
Semicon China 2020
国際画像機器展2019
The 2020 NAMM Show 等々

※「令和2年度分補助金」公募が開始されます。

令和2(2020)年2月3日(月)～28日(金)の予定で、松本市ホームページで公開されます。
応募詳細については、当センターまでご相談ください。

募集！ メルマガ会員& 研究開発室入居企業

メールマガジンの 受信希望企業を募集します

松本ものづくり産業支援センターでは、地域製造業の皆様へ産業支援に係る各種情報を配信する「メールマガジン」を運営しております。

インターネットを通じた情報発信・収集が主流となった今日、必要な情報を得るためには大量の情報データから探し出す必要があります。

当「メールマガジン」では、国・県・市や大学、産業支援機関から発信される各種情報を整理し、E-mailにより直接企業の担当者の方へ配信いたします。

どうぞ、ご活用下さい。

配信する情報の一例

- 国や県の補助金等の公募情報
- 市や商工会議所の支援メニュー、補助金等の情報
- 人材育成に関する研修会・講習会等の情報
- 講演会、イベント等の情報
- 展示会等の開催情報



◆「メールマガジン」配信のお申し込みは、次の内容をE-mailにてご連絡ください。

「事業所名・住所・役職・氏名・E-mail・TEL・FAX」

◆宛先E-mail: info@m-isc.jp へ

◆お問い合わせ: 松本ものづくり産業支援センター (ICT担当: 野尻)

TEL:0263-40-1000 FAX:0263-40-1001

※いただいたE-mailアドレスの他、個人情報、本メールマガジンの配信、及び、松本ものづくり産業支援センターからの連絡にのみ使用し、他の用途では使用いたしません。

研究開発室 (インキュベータ室) の 入居企業を募集します

ICT関連事業を行う中小企業等の育成支援を目的に、研究開発環境 (インキュベータ室) の提供を行っています。ソフトウェア産業、ICTに関連する事業者で、起業を目指す方、既に起業しより良い事業環境や成長支援をお求めの方など、入居をご検討ください。



■所在地: 松本市和田4010-27

■入居募集数: 1室 (1部屋 50㎡)

■使用料: 1,540円/㎡ (50㎡の場合、税込みで月額77,000円)

※共益費 (月5,000円) を負担していただくほか、光熱水費は実費となります。

■基本設備: 空調完備、床はフリーアクセスとなっています。また、構内LANは、Bフレッツを利用してインターネットと接続しています。(利用無料)

※1室あたり、無料で、5台の駐車スペースを利用可能です。

■付帯設備: 共同開発室、商談ルーム、休憩室、リフレッシュルーム など

■入居資格: 長野県内で、ソフトウェア・ICT及びこれに関連する事業を営む個人または法人で、中小企業基本法の定義に基づく中小企業者

※詳細についてはお問い合わせください。

講習会・視察会・催しのご案内

顧客も売上も増え続けるためのサービス設計実践セミナー

ブランディング戦略と戦術の統合！

- 日 時／2020年1月29日(水)、2月12日(水)、2月26日(水) 全3回 13:30～17:30
- 場 所／(一財) 松本ものづくり産業支援センター 研修室
- 申 込／募集に関わる詳細は、決まり次第、ホームページにてご案内いたします。

新入社員教育講座

2020年度、新入社員を迎える事業所の皆様へ！

- 日 時／2020年3月24日(火)、25日(水)、26日(木) 9:30～16:30 (予定)
- 場 所／長野県松本勤労者福祉センター
- 申 込／募集に関わる詳細は、決まり次第(1月頃)、ホームページにてご案内いたします。

〈お問合せ〉

松本市中小企業能力開発学院(松本商工会議所)
TEL.32-5350 <https://www.mcci.jp/>

中南信 自慢の逸品 発掘・売込逆商談会

長野県中南信エリアの17商工団体は、中小企業食品製造業(売り手企業)の販路拡大を目的に、新たな商品発掘を望む小売業、卸売業、飲食業、ホテル・旅館業等(買い手企業)とのビジネスマッチングを支援する「中南信エリア 自慢の逸品発掘・売込逆商談会」(7回目)を開催します。県外のバイヤーも多数参加、総勢100社以上が参加します。参加企業による商品展示会(約60社)を同時開催しますので、見学を希望する企業や関係者の皆様のご来場をお待ちしております。

- 開催日／2020年1月22日(水) 10時～15時
商品展示会 10時10分～11時10分(予定)
- 会 場／長野県松本合同庁舎 講堂
- 参加数／買い手企業25社、売り手企業75社、合計100社(予定)
- 申 込／「商談会」の参加募集は、既に締め切っております。
・「商品展示会」の見学を希望される場合は、事前に下記まで
お申込みください。尚、一般の方のご参加はお受け付けしておりません。



先進企業視察会

- 日 時／2020年2月20日(木) 14:30～16:00(予定)
- 視察先／テスコム電機株式会社 松本工場
- 対 象／松本商工会議所ものづくり工業部会・松本機械金属工業会の会員(20名)
- 協 力／松本臨空工業団地管理組合
- 申 込／募集に関わる詳細は、決まり次第、ホームページにてご案内いたします。

〈お問合せ〉

松本商工会議所ものづくり支援グループ
TEL.32-5350 <https://www.mcci.jp/>

関係機関 (市外局番0263)

松本市 商工観光部 商工課 工業振興担当 / 健康産業・企業立地課
TEL.34-3270 FAX.34-3008 TEL.34-3296 FAX.34-3297

松本市 農政部 農政課 マーケティング担当
TEL.34-3221 FAX.36-6217

松本商工会議所 中小企業振興部ものづくり支援グループ
TEL.32-5350 FAX.32-1482

信州大学 学術研究・産学官連携推進機構
TEL.37-2091・3527 FAX.37-3049

(公財) 長野県テクノ財団 アルプスハイランド地域センター
TEL.40-1780 FAX.47-3380 (長野県松本合同庁舎内)

(一財) 松本ものづくり産業支援センター (松本市情報創造館庁舎 1F)

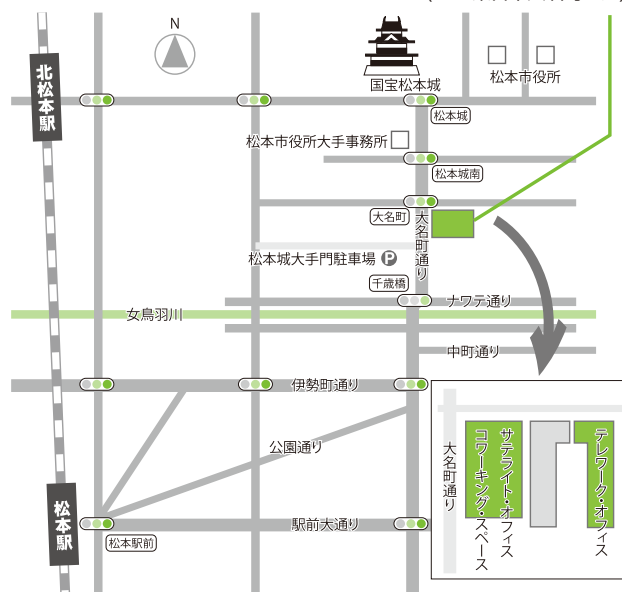


一般財団法人 松本ものづくり産業支援センター

〒390-1242 長野県松本市和田4010-27
TEL.0263-40-1000 FAX.0263-40-1001
ホームページ <https://www.m-isc.jp/>

☐ テレワークオフィスWADA

サザンガク (NTT東日本大名町ビル)



サザンガク matsumoto collaboration space

〒390-0874 長野県松本市大手3-3-9
TEL.0263-33-0339
ホームページ <https://33gaku.jp>

☐ テレワークオフィス
☐ コワーキングスペース
☐ サテライトオフィス